

## 区民協議会施設見学研修報告

～意外と知らない横浜市内の重要施設～

平成30年3月6日(火)、区民協議会第 19 期のメンバーは昨年引き続き、横浜市内の意外と知らない“市民に重要な施設”の訪問として、「北部下水道センター」と「鶴見川流域センター」の2ヶ所を見学しました。以下は概要とちよっぴり感想です。

### 《北部下水道センター》

鶴見区の先端近く、京浜運河に面した埋立地、末広町にある下水処理場を見学しました。広大な敷地内に「北部第二水再生センター」と「北部汚泥資源化センター」とがあり、水再生センターは、家庭から出る生活排水と一部の雨水を集め、沈殿やバクテリア反応で浄化し、海へ放流する施設で、市内に11ヶ所ある施設の一つです。横浜市は下水道が100%完備のため、1日の排水は約1,600,000トン(学校のプール1杯が約250トンなので6,000杯位)で、ここでは1日100,000トン処理しているそうです。この施設に最終的に流入してくる下水管は、自然流下の為、地下約20メートルの深い位置にて直径5メートル強の管で入って来ると聞き、先ずビックリ。近年、ゲリラ豪雨も発生する為、一部取り入れている雨水の量が増大し、処理能力の強化に頭を抱えているそうです。



もう一つの汚泥資源化センターは水処理で出る汚泥(市内で1日に16,000トン)を市内2ヶ所の資源化センターで集約して資源化していて、その1ヶ所がここだそうです。汚泥は脱水、化学反応、焼却等により最終的には20トン(1/8,000)の灰にまで減少させ、残土と混ぜて改良土にすることで、埋め戻し用土として100%再利用しているそうです。

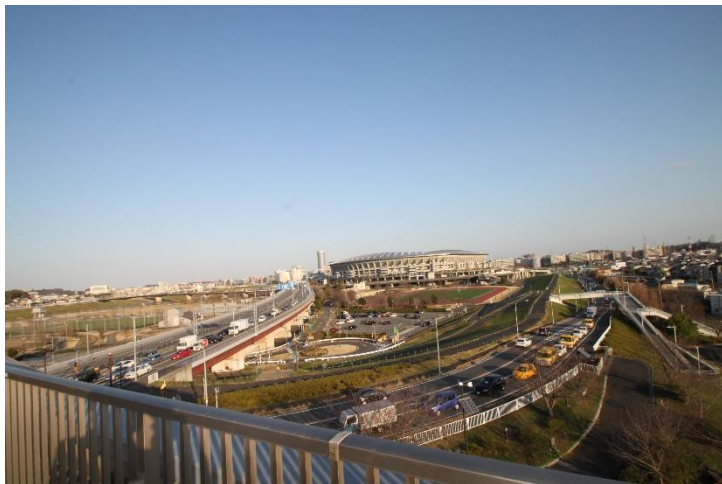
更に施設内で必要な電力は、汚泥タンクから発生メタンガスを利用した発電などで、施設を動かす全電気の80%を賄っているとのこと、これら施設は世界でもトップクラスの高度施設であることから、国内はおろか海外からの見学も非常に多いそうです。凄い！

### 《鶴見川流域センター》

こちらは、新横浜駅近くで、横浜日産スタジアムを含む一帯の「鶴見川多目的遊水地」の中にある遊水地管理施設です。この辺りから下流の鶴見川は国(国土交通省)の直轄管理となっている為、このセンターも国土交通省所管の施設でした。

鶴見川の源流は町田市で、この川に流れ込む流域は町田市、川崎市、横浜市にまたがり235km<sup>2</sup>です(神奈川区の面積の約10倍です)。この区域は昭和30年頃から開発が急速に進み、山林が宅地化されたため、下流の港北区や鶴見区では度重なる氾濫に見舞われ、地元の人々は「暴れ川」と呼んでいたそうです。

その後、抜本的な対策が検討され、昭和55年に大規模な遊水地をこの地に整備する事業が承認され、平成6年着工し16年に運用開始されました。その規模は鶴見川に沿って約840,000



m<sup>2</sup> (約900m四方)の土地を、高さ5メートル程度の土手で囲ったプール状区域を作り、大雨時は川に流れる水を一時的に最大3,900,000トン(前述の横浜市の1日の下水処理量が1,600,000トン)貯留させておくことで、川が溢れるのを防ぐそうです。

特筆すべきは、一般的な遊水地が日常は河原として散策路程度の整備(渡良瀬遊水地等)ですが、ここは市街地の中であり、利便性にも優れていることから有

効利用として、日産スタジアムやサブサッカー場、二つの運動場、野球場、球技場、レストハウス他の公園施設を大規模に整備したことです。しかも、これらの施設は全て豪雨時に水没しても、比較的安易に復元できるようピロティ方式(高床式)で建造されています。(何と!訪問から3日後に神奈川県地方豪雨に見舞われ、球技場他大半がプール状態となりました。整備の役割り発揮です!)

この遊水地としての管理を、様々なカメラや水位センサー、観測機器等で常時、状況を監視し、的確な情報を提供しているのが、この鶴見川流域センターの役割だそうです。屋上に上がってこの巨大な施設を360度展望すると“ナルホド”です。火曜日及び年末年始以外は10時から17時迄一般公開されていますので、皆様も一度行かれては…

